

防災訓練の結果の概要（個別訓練）【埋設事業部】

1. 訓練の目的

本訓練は、「濃縮・埋設事業所 埋設事業部 原子力事業者防災業務計画」に基づき実施する個別訓練であり、訓練を繰り返し行うことにより、手順書等の適用性や個々の知識・対応能力の習熟を目的としている。

2. 実施日および対象施設

(1) 実施日

2016年6月16日（木）～2017年1月26日（木）

(2) 対象施設

廃棄物埋設施設 他

3. 実施体制、評価体制および参加人数

(1) 実施体制

訓練毎に実施責任者を設け、実施担当者が訓練を行う。

(2) 評価体制

定められた手順書等に基づき、各班の対策活動（通報連絡、モニタリング活動、避難誘導、現場応急対策）が実施できるかを実施責任者が評価する。

(3) 参加人数

「添付資料」のとおり。

4. 防災訓練のために想定した原子力災害の概要

(1) 通報訓練

- ・ 原災法第10条、第15条事象に至る原子力災害を想定。

(2) 救護訓練

- ・ 管理区域外にて作業員が負傷したことを想定。
- ・ 管理区域内にて作業員が転倒し汚染したことを想定。

(3) モニタリング訓練

- ・ 廃棄体を積載した輸送車両と廃棄体を積載していない輸送車両が衝突し、横転したことを想定。

(4) 避難誘導訓練

- ・ 廃棄体取扱中での廃棄体落下事象を想定。

(5) その他必要と認める訓練

① 廃棄体取扱い中のトラブル等対処訓練

- ・ 廃棄体取扱中での電源喪失を想定。
- ・ 廃棄体取扱中での廃棄体落下事象を想定。

②放射線防護服脱着・汚染サーベイ訓練

- ・ 廃棄体取扱中での廃棄体落下事象を想定。

③放射能影響範囲推定・評価訓練

- ・ 廃棄体取扱中での廃棄体落下事象を想定。

5. 防災訓練の項目

個別訓練

6. 防災訓練の内容

(1) 通報訓練

(2) 救護訓練

(3) モニタリング訓練

(4) 避難誘導訓練

(5) その他必要と認める訓練

- ①廃棄体取扱い中のトラブル等対処訓練
- ②放射線防護服脱着・汚染サーベイ訓練
- ③放射能影響範囲推定・評価訓練

7. 訓練結果の概要（添付資料）

(1) 通報訓練

- ・ 事象進展を模擬した状況付与を適時行い、通報文（原災法第10条通報、第15条報告、第25条報告）を作成するとともに、社外関係機関への通報連絡に係る対応について訓練を実施した。

(2) 救護訓練

- ・ 事象進展にあわせた救護班内での対策活動の一連の流れを確認した。また、事象進展を模擬した状況付与を適宜行い、負傷者に関する情報収集および社外関係機関への通報連絡・応急処置・搬送に係る対応について訓練を実施した。

(3) モニタリング訓練

- ・ 立入制限区域の設定に必要な資機材の準備から設置までの対応、発災現場を考慮した汚染検査エリア（脱衣エリア）の設置場所の選定および設置等の実働訓練を実施した。
- ・ 発災現場の線量測定を行うため、気象条件等を考慮した測定場所の選定および線量測定の実働訓練を実施した。

(4) 避難誘導訓練

- ・ 作業員・見学者等の点呼確認、避難誘導に係る対応について訓練を実施した。

(5) その他必要と認める訓練

①廃棄体取扱い中のトラブル等対処訓練

- ・ 施設の被害状況の確認、必要な情報の報告、事象収束に向けた現場対策活動（各工具の使用法、廃棄体運搬、廃棄体の養生作業等）に係る実働訓練を実施した。

②放射線防護服脱着・汚染サーベイ訓練

- ・ 発災事象直後の現場状況から放射線防護服装着の選定および放射線防護服の適切な装着（リークテスト、目張り、識別表示等）についての訓練を実施した。
- ・ 作業者への汚染サーベイに使用する測定器および取扱いについての訓練を実施した。

③放射能影響範囲推定・評価訓練

- ・ 廃棄体の性状を基に想定事象に対応する放出源情報の整理、放出源情報および気象条件を基にした放射線影響範囲の推定・評価訓練を実施した。

8. 訓練の評価

各個別訓練について定められた手順どおりに訓練が実施され、対応者の習熟を図れた。

9. 今後の原子力災害対策に向けた改善点

訓練毎の今後に向けた改善点は添付資料のとおり。

以 上

〈添付資料〉

個別訓練の概要

個別訓練の概要

訓練項目	実施日	実施体制 ①実施責任者 ②実施担当者	参加人数	実施結果	今後の原子力災害対策に向けた改善点
通報訓練	2016. 10. 26	①本部事務局班長 ②本部事務局員	10名 (当社社員)	・事象進展に応じた各通報文（原災法第10条通報、第15条報告、第25条報告）を作成し、社外（模擬）へ通報連絡等を実施した。	・通報文の記載例について見直しを行い、様式の充実化を図るとともに、訓練を重ね、個々の対応能力および習熟度を高めていく。
救護訓練	2016. 9. 30	①救護班長 ②救護班員	11名 (当社社員)	・負傷者の情報収集、社内外関係機関への通報連絡および救護活動（応急処置・搬送）に対する班内での連携・対応能力について確認した。	・より厳しい条件設定のもと習熟度を高め、個々の対応能力および班員との連携強化を図っていく。
	2016. 11. 11	①救護班長 ②救護班員	8名 (当社社員)		
	2016. 12. 1	①救護班長 ②救護班員	8名 (当社社員)		
	2016. 12. 6	①救護班長 ②救護班員	8名 (当社社員)		
モニタリング訓練	2017. 1. 10	①放射線管理班長 ②放射線管理班員	6名 (当社社員)	・発災現場の放射線状況や気象条件を考慮した汚染検査エリアおよびダスト採取ポイントの設置を実施した。	・防護装備の脱装時について、作業者の負担が少なく効率がよくなるよう、脱装補助者がいる場合の手順をマニュアルに追加する。 ・訓練を重ね、個々の対応能力および習熟度を高めていく。

訓練項目	実施日	実施体制 ①実施責任者 ②実施担当者	参加人数	実施結果	今後の原子力災害対策に向けた改善点
避難誘導訓練	2016. 6. 16	①総務班長 ②総務班員 ②放射線班員 ②運転管理班	9名 (当社社員)	・発災事象に関する必要な情報を入手し、避難ルートの検討、避難者情報（怪我、汚染等）の共有および引渡し方法等、他班と連携しながら避難誘導等を実施した。	・避難者の体調について、避難直後だけでなく、継続的にフォローしていく必要がある。 ・訓練を重ね、習熟度を高め、個々の対応能力および班員との連携強化を図っていく。
	2016. 11. 22	①総務班長 ②総務班員	8名 (当社社員)		
廃棄体取扱い中の トラブル等対処訓練	2016. 8. 16	①設備応急班長 ②設備応急班員	6名 (当社社員)	・被害状況の確認、事象収束に向けた現場対策活動（各工具の使用方法・廃棄体の固縛方法・廃棄体の養生作業等）について、各班員と連携・確認しながら対処訓練を実施した。	・訓練を重ね、習熟度を高め、知識・対応能力の維持・向上を図っていく。
	2016. 8. 29	①運転応急班長 ②運転応急班員	7名 (当社社員)		
	2017. 1. 26	①運転応急班長 ②運転応急班員 ①設備応急班長 ②設備応急班員	10名 (当社社員)		
放射線防護服脱着・汚染サーベイ訓練	2016. 8. 16	①放射線管理班長 ②放射線管理班員	4名 (当社社員)	・作業者の放射線防護服の選定や装着方法・手順について確認した。 ・測定装置の使用法およびその取り扱いならびに測定方法について確認した。	・知識・経験が少ない若手社員が一部の測定装置の取り扱いに手間取る面が見受けられた。測定装置の使用法等について再度教育を実施する。
放射能影響範囲推定・評価訓練	2017. 1. 18	①放射線管理班長 ②放射線管理班員	9名 (当社社員)	・放出源情報および気象条件を元に、放射線影響範囲の推定・評価を実施した。	・訓練を重ね、個々の知識・対応能力の維持・向上を図っていく。